

令和6年度「まちづくり懇談会」開催報告書【川崎地域】

1 会の概要

日時	7月23日(火) 18:30~20:00	場所	川崎市民センター研修室
対象地区	川崎地域	対象者	川崎まちづくり協議会会員
テーマ	10年後の地域のすがた		
参加者	川崎まちづくり協議会会員 15人、地域おこし協力隊隊員 1人 いちのせき市民活動センター（ファシリテーター） 3人		
市出席者	川崎支所長、次長兼産業建設課長、地域振興課長、市民福祉課長、 課長補佐（地域担当）兼地域協働係長、地域振興課員2人		
特記事項			

2 懇談会で出された意見等

No.	区分	項目	内容	備考
1	意見	地縁団体	人口減少に伴い、地域でのコミュニケーションが難しくなっている。今後どのように地域、隣近所とつながっていくか考える必要がある。	
2	意見	地縁団体	団体や組織の役職が昔から変わっていない。それぞれの地域での役員選出が難しくなっているため、役職、組織の見直しに市は力を入れてほしい。また、今の課題解決に向けた組織、役職となっているのか検討してもらいたい。	
3	意見	移住定住	川崎は市の中心部にある強みがある。職場は少ないが、通勤するには便利な地域。子育てに必要な要素（塾など）や娯楽施設があるとなお良い。	
4	意見	公共交通	子どもや高齢者にとって交通手段の確保は、福祉、定住の問題につながっていくので、より利用しやすい公共交通サービスの検討に力を入れて欲しい。	
5	意見	公共交通	デマンド型乗合タクシーに関する理解促進（利用促進）とともに、デマンド型乗合タクシー以外の手段での公共交通の仕組みを検討して欲しい。	
6	意見	公共交通	公共交通を「福祉」として捉えるか、「採算」の視点で捉えるかが重要。「福祉」として捉えるのであれば、採算が合わなくても、公共交通を維持していく必要がある。	

7	意見	防 災	治水事業が進展し水害が少なくなった。その反面、過去の水害を知らない人が多く、防災意識を持つことが必要だ。	
8	意見	その他	合併前の地域の括り(枠)の垣根を超えることが大事ではないか。すぐ隣の弥栄も生活圏は川崎なのに、一関地域エリアの括りになるため、中学校は滝沢に行くなど、不便なように感じる。変化に合わせたサービスは必要。	
9	意見	その他	川崎では行政と対話して課題を解決している。川崎地域は「行政と一緒に話せている」と感じている。	
10	意見	その他	地域を支えたいという支所の気持ちは伝わるものの、職員が少ないため、地域を見て回れていない。支所を空っぽにしても良いので地域を見て回ってほしい。 支所の窓口を民営化にし、職員は地域を回ってはどうか。	
11	意見	その他	地域を知らない職員が多い。	
12	意見	その他	支所の職員が少ないせいか支所から地域へ「これをやってください」というお願いが増えた。	
13	意見	その他	支所は地域と向き合える距離感があり、一緒に何かを考えることができる。	